

歩行者から見た街路景観の印象に関する研究

長崎大学大学院 学生会員 ○村瀬 照寛 長崎大学大学院 非会員 安武 敦子
 東京大学大学院 正会員 坂本麻衣子

1. はじめに

近年、国土交通省の観光庁は「観光立国の推進」「地域活性化」を政府の新成長戦略に位置づけている。また、地方では地域活性化、観光推進が課題とされており、市街地および観光地周辺の賑わいの創出が求められている。このため、地方では、魅力的な公共空間の創出を目指し、街路の電線の地中化等により歩行空間の景観の改善整備が活発に行われている。

しかし、既存の整備では、実際の賑わいの創出と適合していない例もある。そのような例では、歩行者の回遊性や快適性向上といった目的と、整備内容が適合していないことが一因であると考えられる。

歩行者の街路空間に対する認識を明らかにし、歩行者から見た街路空間の印象評価をもとに、快適な歩行空間の環境を提案することで、歩行環境改善を誘導し、市街地の回遊性の向上や賑わいの創出に繋がると考えられる。

本研究では、長崎市の商店街の街路を対象に、歩行者から見た街路景観に関する印象評価を把握するために街路景観の印象評価実験を行う。印象評価実験をもとに分析を行い、街路の印象評価を行うことで快適な歩行空間の創出に繋がる街路景観の提案を目的とする。

2. 印象評価実験

2.1 実験概要

対象地域の街路景観の印象を把握するために、SD法¹⁾を用いて街路景観の印象評価に関するアンケート調査を行った。アンケートは無記名、質問項目は22項目設けた。被験者は、街路景観について一般的な判断を行える者として、長崎大学に在籍している土木および建築を専攻する学生等とした。被験者数は75名を得た。アンケート調査に使用した質問項目を表1に示す。

街路景観の印象評価の調査において、好適な印象および歩きたいと思う街路の印象構成の把握、色彩の位置に対して印象の変化に相違が見られるか、街路の色彩の変化やベンチ、プランターなどのオブジェクトの設置に対して印象の相違が見られるか、という目的のもとで実験を行う。

表1 アンケートに使用した質問

見て楽しい	- 見てつまらない	洗練された	- 野暮ったい
特色のある	- 平凡な	趣きにくい	- 趣きやすい
賑やかな	- 静かな	伝統的な	- 先進的な
親しみやすい	- 近づきにくい	安らぐ	- わくわくする
落ち着いている	- 落ち着きにくい	地元らしきがある	- 地元らしきがない
すっきり	- ごみごみ	変化に富んだ	- 単調な
暖かい	- 冷たい	派手な	- 地味な
軽快な	- 重厚な	活気のある	- 活気のない
明るい	- 暗い	自然的	- 人工的
圧迫感のある	- 開放的な	色合いが良い	- 色合いが悪い
歩きたい	- 歩きたくない	好き	- 嫌い

2.2 実験方法

本研究では印象評価実験は2段階に分けて行う。第1段階の実験では、対象とする街路の現状の画像を上部と下部に分け、色彩の位置の変化に対する印象評価を行った。画像の上部とは、建物のひさしと看板とし、画像の下部とは、歩道の舗装とする。実験に使用する画像は、現在の街路の画像と上部の色彩を変化させた画像、下部の色彩を変化させた画像、上部と下部両方の色彩を変化させた画像、計4枚の画像である。

本研究の対象とする街路の現状の画像を図1に、上部の色彩を変化させた画像を図2に、下部の色彩を変化させた画像を図3に示す。また、上部と下部両方の色彩を変化させた画像は図2と図3の画像を組み合わせた画像である。

第2段階の実験では、第1段階の実験で1番好まれた街路の画像の色彩を寒色である青色と中性色である黄色に変化させた画像の計2枚の画像を用い、色彩の変化に対する印象評価を行った。また、ベンチやプランター、植栽の設置に対する印象評価実験では、現在の街路の画像に対して、休息所であるベンチを設置した画像と花を植えたプランターを設置し植栽を増加させた画像、現在の画像から街路樹を取り除き植栽を減少させた画像の計3枚の画像を使用した。

休息所を設置した画像を図4に、植栽を増加させた画像を図5に植栽を減少させた画像を図6に示す。



図1 対象街路



図2 上部を変化



図3 下部を変化



図4 休息所の設置



図5 植栽の増加 図6 植栽の減少

4. 街路景観の印象評価の分析

4.1 歩きたい街路と好適な街路の評価構造

「歩きたい」と「好き」な街路についての総合的な街路の評価構造を把握するために、全ての街路の印象評価実験結果を用いて相関分析を行った。分析の結果、「歩きたい」に対し、「好き」の相関係数が0.62と最も高い正の相関となり、好きな街路であると歩きたい街路といえる。「好き」に対し、「色合いが良い」の相関係数は0.76と最も高い正の相関となり、色合いがよい街路であると好きな街路であると考えられる。

4.2 色彩の位置の変化に対する印象の相違

第1段階の実験結果をもとに、色彩の位置の変化に対する印象の相違について分散分析を用い検討する。色彩の位置の変化に対する印象評価値の平均値と標準偏差と有意確率を表2に示す。

表2 色彩の位置の変化の結果

		平均値	標準偏差	有意確率
好き	現在	3.28	1.01	0.00
	上部	2.74	0.88	
	下部	3.89	0.89	
嫌い	現在	2.84	1.14	0.00
	上部	3.20	1.07	
	下部	2.93	1.15	
開放感	現在	3.57	1.07	0.00
	上部	2.84	1.17	
	下部	2.88	1.02	
色合い良い	現在	2.92	1.06	0.00
	上部	3.72	0.92	
	下部	2.98	1.18	

表2より「好き」に関する質問では、平均値は下部の色彩を変化させた画像→現在の画像→上部と下部両方の色彩を変化させた画像→上部の色彩を変化させた画像の順に高く、この順に好きな街路構造と考えられる。「圧迫感」に関する質問では、現在の画像と比較すると、下部の色彩を変化させた場合は低い値を示した。「色合い」についての質問項目では、現在の画像と比較すると下部の色彩を変化させた場合は高い値を示した。

4.3 色彩の変化に対する印象の相違

第1段階の実験結果と第2段階の実験結果をもとに、色彩の変化に対する印象の相違について分散分析を用い検討する。色彩の変化に対する印象評価値の平均値と標準偏差と有意確率を表3に示す。

表3より「好き」に関する質問では、平均値は色彩が赤色→青色→黄色の順に高く、この順で好きな街路構造と考えられる。「親しみやすさ」および「色合い」

についての質問では、色彩が赤色の画像が高い値を示した。「圧迫感」に関する質問では、色彩が赤色の画像が低い値を示した。

表3 色彩の変化の結果

		平均値	標準偏差	有意確率
好き	赤色	3.89	0.89	0.00
	青色	3.08	0.94	
	黄色	2.28	1.08	
親しみやすい	赤色	3.77	0.86	0.00
	青色	3.57	0.94	
	黄色	2.24	0.94	
近づくにくい	赤色	2.50	1.07	0.00
	青色	3.00	1.07	
	黄色	3.58	1.00	
圧迫感	赤色	3.72	0.92	0.00
	青色	2.93	1.00	
	黄色	2.18	1.14	

4.4 オブジェクト設置に対する印象の相違

第1段階の実験結果と第2段階の実験結果をもとに、オブジェクトの設置に対する印象の相違について、分散分析を用いて検討した。オブジェクトの設置に対する印象評価の平均値と標準偏差、有意確率表4に示す。

表4 オブジェクトの結果

		平均値	標準偏差	有意確率
好き	現在	3.28	1.00	0.01
	休息所有	3.78	0.85	
	植栽増加	3.61	0.86	
嫌い	植栽減少	3.66	1.09	0.00
	現在	3.64	0.89	
	休息所有	4.26	0.72	
親しみやすい	植栽増加	3.92	0.76	0.00
	植栽減少	3.58	0.97	
	現在	3.04	1.00	
明るさ	休息所有	3.80	0.88	0.00
	植栽増加	4.04	0.84	
	植栽減少	3.94	0.91	
暗い	現在	2.58	1.07	0.00
	休息所有	2.24	0.90	
	植栽増加	2.16	0.98	
圧迫感	植栽減少	1.86	0.96	0.00
	現在	2.58	1.07	
	休息所有	2.24	0.90	

「好き」に関する質問項目では、平均値は休息所設置→植栽の減少→植栽の増加→現在の画像の順に高く、この順で好きな街路構造であると考えられる。「親しみやすさ」に関する質問では、休息所を設置した画像「明るさ」についての質問では、植栽を増加した画像が最も高い値を示した。「圧迫感」に関する質問では、植栽を減少した画像が最も低い値を示した。

5. まとめ

本研究では、街路景観の印象評価より、好適な印象を受ける街路構成の把握を行った。羽室ら²⁾は景観を評価する上で色彩が与える印象が他の要素より与える影響は大きいと述べた。本研究においても、色合いの良い街路構成であり、また加えて歩道の舗装などが赤色であり、休息所であるベンチを設置すると好適な印象を与えることがわかった。

参考文献

- 1) Osgood, C.E.; Suci, G.J.; and Tannenbaum, P.H. The Measurement of Meaning. Urbana, Illinois: University of Illinois Press, 1957.
- 2) 羽室早瑛:都市における経路選択時の心理的評価軸と注視対象,日本建築学会大会学術講演概集,827-828,2011.